



香南市『人・農地プラン』検討委員会

＜人・農地プラン＞

令和4年度の活動レビュー

1

令和5年2月20日

香南市 農林水産課

Version 1.1



目次

- 本資料の目的
- 『人・農地プラン』の指針
- 令和4年度の人・農地プランの活動方針
- 地区別『人・農地プラン』施策との関連
- 活動① 農業インフラの整備
- 活動② 農業経営向上研修会
- 活動③-1 農業就労者確保
- 活動③-2 農業補助金改訂と展開
- 令和4年度の実施策のレビューまとめ



本資料の目的

- 令和4年度の活動指針と活動内容を振り返り、良かった点、悪かった点を明確にする。
- 令和5年度以降の施策の基とする。
- 香南市『人・農地プラン』検討委員会にて、活動内容等を説明し、ご質問やご意見を頂く。



令和4年度『人・農地プラン』の指針

4

- 令和3年度からの、人・農地プランの施策を継続する。
- ①インフラ整備を通じた農地の集積、②農業経営/農村維持施策、③デジタルインフラを活用した農業人材の確保を柱とする。

令和2年度

令和3年度

令和4年度

- ◆人・農地プランの実質化
 - ・アンケートの実施
 - ・地区の話合い
 - ・プランの策定

- ◆プランの実施
 - ・農業インフラ改善
 - ・農業経営向上研修（中山間部）
 - ・補助金/制度情報まとめと展開

◆プランの実施

- ①農業インフラ改善
- ②農業経営向上研修（平野部）
- ③-1後継者/人手不足対応
-2補助金制度の情報アップデート

地区別の『人・農地プラン』施策との関連



5

■令和4年度は、令和3年度の施策の実施状況や成果等を鑑み、①インフラ整備への取組（継続）②農業経営向上策（継続）③-1農業就労者確保策（新）を人・農地プランの施策とする。（③-2補助金情報系はアップデートする。）

No.	地区	①	②	③-2		③-1			
		インフラ整備	経営向上研修	補助金等情報	農地集約 利用権情報	新規就農 呼掛け/支援	集落営農 立上/維持	農業＋サービス	農地周辺との 調和
1	佐古	○	○	○	○				
2	西野・大谷・深淵	○	○	○	○				
3	下井・上岡	○		○			○		○
4	東野	○		○	○	○			
5	富家	○	○	○	○				
6	香宗	○	○	○	○				
7	吉原	○	○			○			
8	古川	○	○			○			
9	赤岡				○	○	○		
10	徳王子・岸本	○	○	○	○				
11	山南	○	○	○					
12	山北	○	○	○					
13	西川		○		○	○		○	
14	東川		○		○	○		○	
15	舞川・撫川・奥西川		○		○	○		○	
16	西山・坪井	○	○	○	○	○			
17	十ノ木・上夜須	○	○	○	○	○			
18	夜須川・細川・国光		○	○	○			○	
19	羽尾		○	○	○			○	
20	手結山		○	○	○			○	
件数		13	17	14	15	9	2	6	1



施策① 農業インフラの整備

6

- 県や市の農地整備事業を活用し、現所有者/現耕作者およびその後継者の農業利便性向上を図ることを通じて、**担い手への継承を進める物理的な基盤**を作る。
- 事業化の要件に目標とする集積率が設定されており、**事業対象地区**で農業委員/推進委員に協力を頂いて**農地の集積**を進めている。

	対象地区	事業の種類 (事業主体)	採択申請	事業採択	活動内容	見込み集積率 /受益地面積
1	土居徳王子	農地耕作条件改善事業（香南市）	令和4年 2月	令和4年 4月 (採択済)	・地権者/耕作者把握 ・地元要求内容の確認 ・農地集積活動（集積率20%+） ・集積進捗確認 ・インフラ改修内容の合意 ・事業計画の地元説明	20%/24ha
3	白岩	農地耕作条件改善事業（香南市）	令和5年 2月	令和5年 6月	・地権者/耕作者の把握 ・地元要求内容の確認 ・集積率20%+の確保→見込み39% ・インフラ改修内容の合意 ・事業計画の地元説明	39%/11ha
2	上夜須	中間管理機構関連 農地整備事業（高知県）	令和6年 9月	令和6年 11月	・地権者/耕作者の把握 ・地元説明会 ・事業申請に必要な書類確認と作成（w/農業振興センター） ・構想図/事業計画/設計図の説明会開催 ・集積への意向確認/農地集積活動（集積率100%+）	100%/7ha

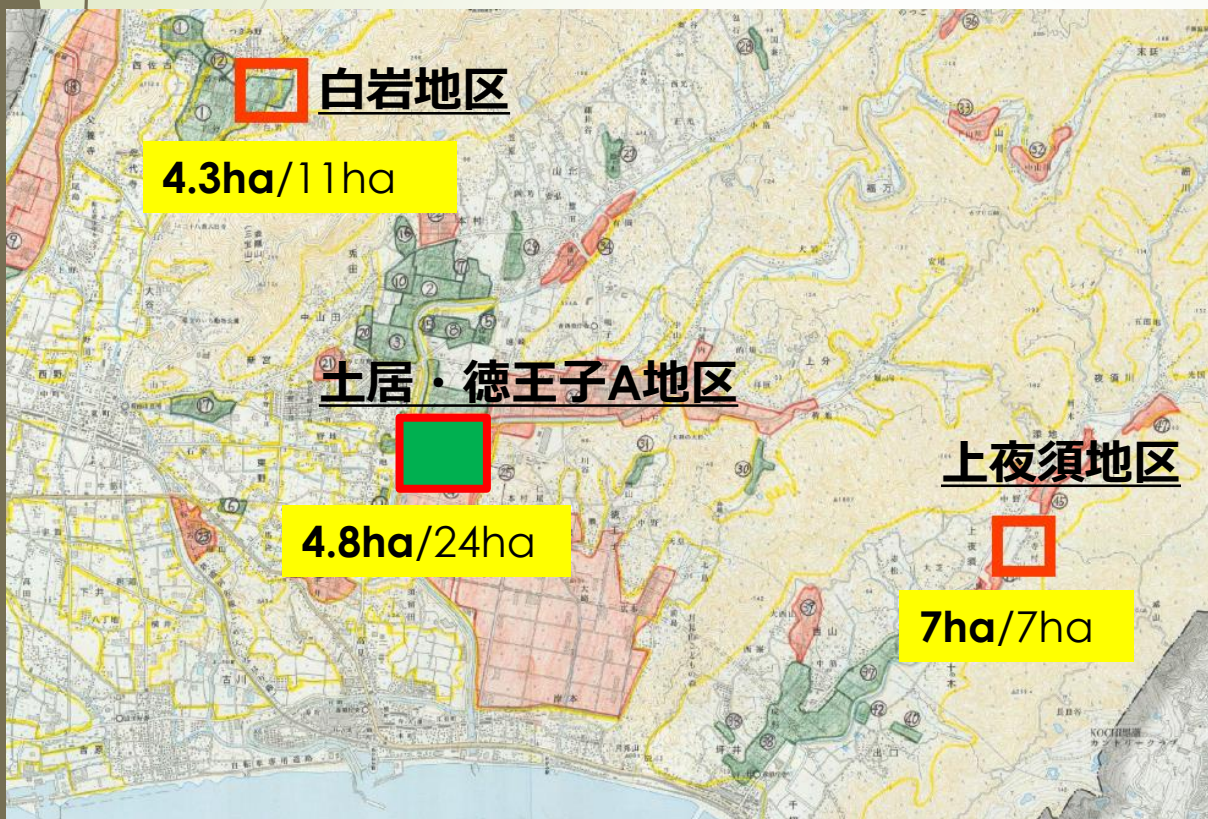
活動① 農業インフラの整備状況



7

- 土居徳王子地区は事業採択され、事業に着手した。
- 白岩地区は、2月に採択申請予定。
- 上夜須地区は県への事業計画策定要請を準備中である。

事業開始/採択申請予定の地区 (集積面積/農地面積)



-  事業採択済の地区
-  採択申請に向けて進行中の対象事業地区
-  過去のほ場整備関係事地区
-  過去のほ場整備関係事業以外での事業地区

活動① 農業インフラの整備

8

良かったこと/改善すべきこと

良かったこと		今後の留意点/さらなる改善
地元 対応	・ 迅速な対応ならびに地元へのこまめな説明（推進者の立ち上げ、タイムリーな地元説明会）で、地区の推進者からの信頼/協力を得ながら進めることが出来た。	・ 事業化への進捗状況を、地元に適宜お知らせする仕組みを検討する。（Web、SNS等で知らせる仕組み）
悪かったこと		改善にむけて
事業 プロジェクト マネジメント	・ 令和3年度の活動の反省より、農林水産課役業務分担当に『圃場整備事業担当』を設け、担当者を任命したが、建設課/農林水産課で役割詳細の認識レベルが異なり、業務上齟齬をきたした。	・ 事業に向けた準備活動における各部署/担当者間での役割分担の明確化を図る。 ・ 進捗管理も含め事業全体の管理者（プロジェクトマネジャー）を置く体制をとる。
事業化計画	・ 耕作条件改善事業では、農地インフラ改善要求の地区が複数あり、今後も見込まれる。事業予算が限られる中、どこを重点とどこから順番に取り組むとか、市全体での計画が無い。	・ 耕作条件改善事業の導入順位を含めた、市全体の農業インフラ計画を策定する。
業務 手続	・ 最短工程で採択申請できるよう事前に提出書類全容を確認したつもりだったが、圃場整備事業（県）の採択申請に必要な申請書類は、申請直線まで不明であったため、不安感があった。	・ 市側で作成することが必要な書類全てを県側に開示するよう再度要望する。



9

- 担い手としての集落営農組織の活性化を図るべく『集落営農の大きな可能性』を講演会テーマとした。

講師：楠本雅弘 様

(農山村地域経済研究所 所長)
(高知県集落営農アドバイザー)



■ 期待成果：

- ① 今後の地域農業を維持するために、集落営農の活性化に向けての事例や知識を腹おち（深く理解）する。
- ② 専門家からのアドバイス頂きながら、**課題を発見し組織内での共有**を図る。

■ 開催時期/会場

- ✓ 令和4年11月25日（金）18：30～20：30 （講演+Q&A 50分、グループ討議70分）
- ✓ 赤岡市民会館 ホール

■ 対象

- ✓ 集落営農（赤岡西部、赤岡北部、兔田・本村、中ノ村）の組織員
- ✓ 集落営農組織地区の担当農業委員・推進委員
- ✓ 農林水産課、協力機関

■ 協力

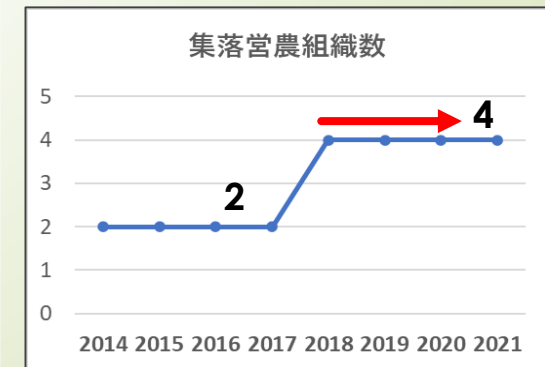
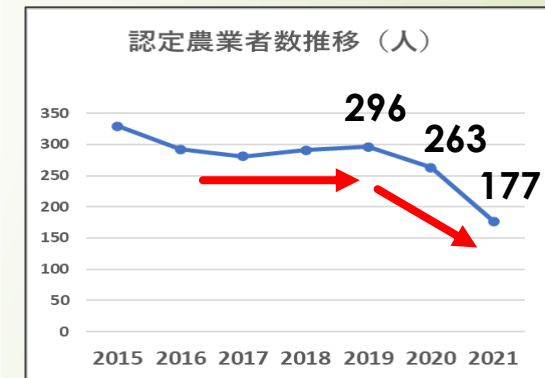
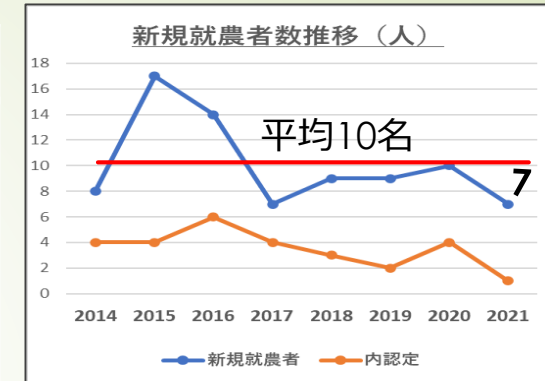
- ✓ 高知県農業会議所、高知県農業担い手支援課、中央東農業振興センター

参考：香南市における担い手数の傾向



- 新たな就農者は年平均で10名程居る。
- 担い手の中心である認定農業者の大幅な減少が起きている。
- 集落営農活動組織は少ないながら、有機栽培とかライスセンター共同利用等の活動を継続している。

担い手	増減状況	傾向
(認定) 新規就農者	平均+10名/年	・年間10名程度の新規就農者を受け入れている。 ・そのうち3~4名が認定を受けている。
認定農業者	▲119名 (2019→2021)	・2019年度までは300名弱程度で推移していた。 ・2020~2021年度の2年で急減した。引退や死亡の他、融資を受ける必要が無くなったといったことが背景にある。 (この2年の減少：新規就農者12年分に相当)
集落営農	±0	・4組織が存在している。 (2組織は昭和、平成初期からの防除組合) ・2018年度以降の組織化は無い。 ・各組織へのヒアリングを通して、集落営農は地域農業の担い手として期待されるものの、活動の方向性/組織の運営/後継者育成等に課題がありそうである、ことがわかった。





講演会/研修会の様子

11



講演を聞く出席者



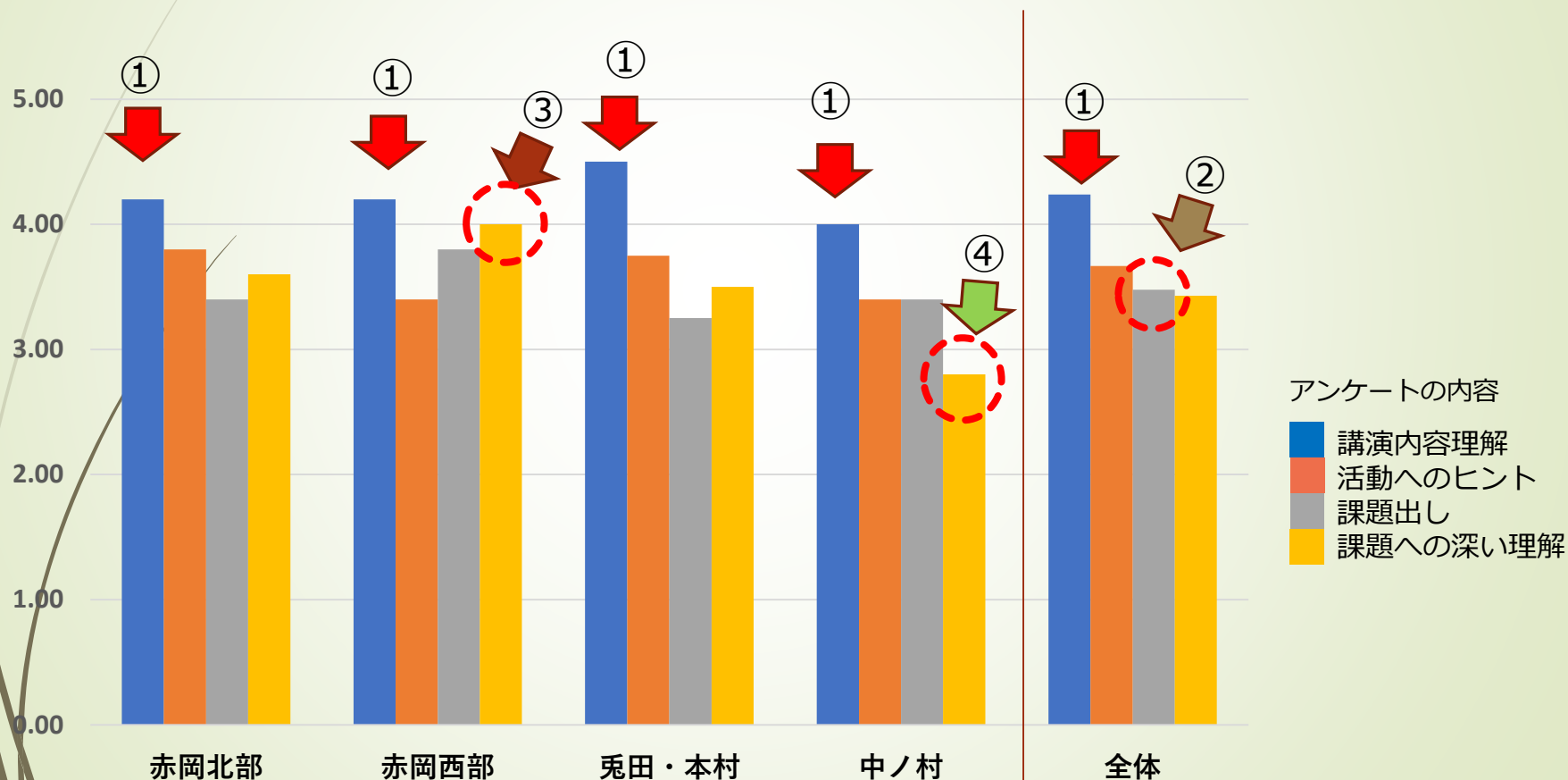
講師の楠本先生

講演会/研修会のアンケート 結果



12

- 各組織とも、講演内容の理解度は総じて高かった。①
- 全体的に課題出しには、やや苦戦したようである。②
- 赤岡西部では、課題に対する理解が深く出来た様である。③
- 課題出し及び腹落ち面で、中ノ村の評価は低かった。④



(アンケート回収 21件)

集落営農組織へのその後の活動



13

■ 今回の研修会の目的でもある、『集落営農組織での課題の共有』を浸透させ、各組織の課題への対応活動を支援していく。

- ① 各集落営農組織からのヒアリングを行う中で、『課題の共有』状況を再確認する。
→ 集落営農組織等整理表（調査表）に反映する。（12月上旬）
- ② 今回の講演会/研修会のレビュー及び調査票を県（担い手支援課、振興センター）に報告する。（12月中旬）
- ③ 各組織の活動状況に合わせて、個別（下表参照）に活動支援を行う。（1月以降）

組織	赤岡北部	赤岡西部	兎田・本村	中ノ村
講演会/研修会での状況	・不在地主、米価、農業機械等の課題を議論した。 ・構成員がほぼ全員参加できたため、今回の研修会で課題の共有はできた。	・基盤整備の必要性やそれを支える補助金制度などの課題、資金的な面で法人化が有利である等を議論した。	・後継者、リーダーシップ、オペレーター不在等の人に関する課題を確認した。	・多面組織、一般参加者も交じり、農業問題（特に米価）の課題、防除の課題を議論した。
支援	・若い世代をどのように組織に入れるかという課題に特化して、その実現に向けた計画づくりを支援する。	・機材の補助金申請をフォローする。 ・若い後継者候補の後継者化、及び法人化に向けた計画づくりを支援する。	・リーダー向けに防除活動のみならず、多様な集落営農活動の事例等の情報を届ける。	・リーダー向けに防除活動のみならず、多様な集落営農活動の事例等の情報を届ける。



良かった点・改善検討事項

	良かったこと	検討事項	次への改善
講演・研修の内容	・講演の中での事例が豊富であり、集落営農への理解を高めることにプラスであった。 ・ビデオの利用で、集落営農の良さを現地の農業者の生の言葉を通じて聞くことが出来、集落営農活動の良さや苦勞を身近に感じることが出来た。	・帰納的な講義（個別の事例から集落営農全体を推し測るというアプローチ）であったので、集落営農の基本的な考え方や全体像がつかめたかどうか。。。 ・防除組織のグループワーク（GW）は、議論が厳しいことが分かっていたが、準備が十分でなかった面もあるが、リーディングが難しかった。 ・多面のメンバーとの整合、一般耕作者のGW参加、リーダー不在等想定外もあった点も、議論上の配慮/事前対応が必要であった。 ・個別の農家の稲作が赤字なのに、それをまとめて法人化すると、なぜ黒字化できるかを説明しきれなかった。	・農業者に対して、1回は『集落営農とは何ぞや』的な基本知識の理解を図る場を設ける。 ・防除組合の今後については継続検討する。（先生にどっぷり入っていただく、とか） ・集落営農組織は、多面、中山間等の活動とどうかかわるのが良いのかを運営側で詰めておく。 ・法人化による黒字モデルを可視化して説明できる資料を用意する。
運営	・講演会/研修会を契機に、（各組織のみならず農林水産課内でも）集落営農への関心度を高めることにつながった。	・農業委員/推進委員への勉強会への勧誘をどのように行うかが、課題となった。（コロナの関係もあり積極的な勧誘は控えたが、農業委員からは、農業委員会として参加必須では、との意見もでた。）	・県/農業振興センターの支援を得ながら継続して、集落営農の活動の活性化を図る。（前頁参照） ・集落営農活性化への農業委員会のスタンスを確認する。

施策③-1 農業就労者確保 『デジタル町1丁目』を通じて農業人材確保

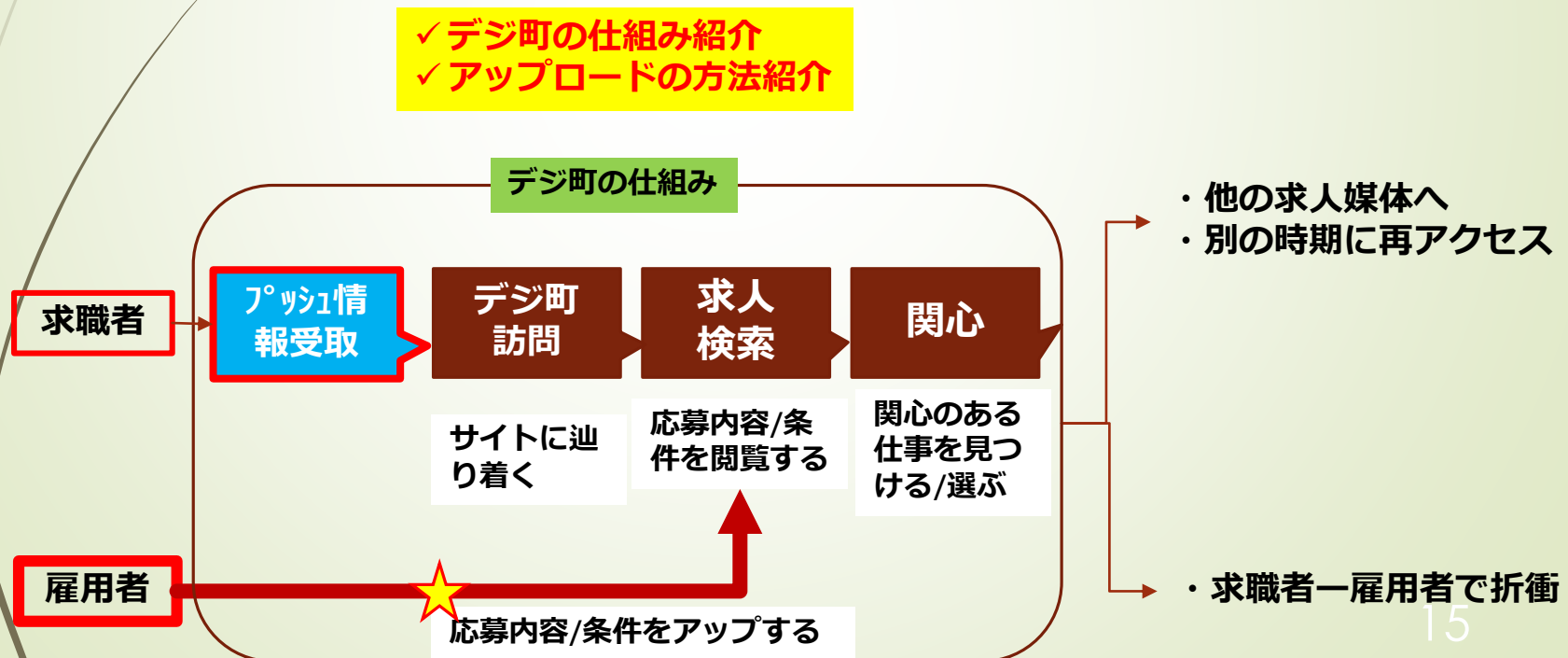


- 課題： **農作業者の慢性的不足**により、現状の農業の維持あるいは拡大ができない。

(例) 佐古地区の農業者（法人化はされていない。）から、農林水産課の窓口にて相談あり。

- ハローワークに求人を出しているが、農作業者を採用できないで困っている。
- 農業求人に対して、支援制度はないのか？ → 「制度がない旨」の回答。

- 施策： **農作業者応募の仕組み**を求職者/雇用者に提供できるよう、デジ町の仕組みを利用する。



参考) 実際の『デジタル町一丁目』の 農業分野求人情報の仕組み



16

- ① LINEへ登録後、定期的（週一回）に求人情報が入ってきます。
示されたURLをクリックすると、求人情報サイトにリードされます。



- ② 『農業』分野で検索すると、農業の求人情報を見ることが出来ます。





施策③-2 補助金情報等アップデート

17

- 新年度の法改正/制度改訂等を反映し、令和4年度版にアップデートを完了（7/10）。
- 研修会や新規就農フェアで利用したり、香南市のホームページ、農林水産課の窓口で情報提供中。

令和3年度版



令和4年度版



利用状況（7/13～2/16）

農林水産課窓口：41部	} 91部
新就農フェア：4部	
講演会/研修会：8部	
農業委員会配布：38部	



施策③-2 補助金情報等アップデート

18

■ 香南市ホームページへの 農業補助金紹介サイト

香南市
Konan City Web Site

文字サイズ 標準 拡大 背景色変更

くらし・手続き | 子育て・教育 | 文化・スポーツ | 健康・福祉

現在の位置 ホーム > 産業・まちづくり > 産業振興 > 農業・林業・水産業 > 農業 > 香南市農業補助金/制度の概要

香南市農業補助金/制度の概要

いいね! シェアする ツイート 更新日: 2022年07月15日

このたび、農林水産課と関係組織で農業補助金/制度をまとめて概観できる資料(令和4年度版)を作成しました。
当資料を香南市ホームページ及び小冊子の形で展開することを通じて、地区の農業者の皆様へ補助金/制度の概要をご理解いただき、圃場整備や農道/水路などの農業資源の維持等、地区の農業の持続/発展に向けた活動の一助となれば幸いです。

- 一括ダウンロード (PDFファイル: 1.9MB)
- 表紙〜本資料の作成目的/本資料に含まれる農業補助金 (PDFファイル: 504.7KB)
- 第1章 新規就農、機械・設備の導入、コストや収入減への補填 (PDFファイル: 1.1MB)
- 第2章 圃場整備、農道や水路の維持改善、地域団体活動 (PDFファイル: 870.0KB)
- 第3章 園芸ハウス、農業高度化、有機農業 (PDFファイル: 827.7KB)
- 第4章 有害鳥獣対策、災害復旧対応/災害への備え (PDFファイル: 769.6KB)

■ アクセス状況：
令和4年度版を掲載した7月以降、アクセス件数が増加した。

アクセス件数



香南市HP> 産業・まちづくり> 産業振興> 農業・林業・水産業> 農業> 香南市農業補助金/制度の概要

https://www.city.kochi-konan.lg.jp/sangyo_machizukuri/sangyoshinko/nogyo_ringyo_suisangyo/2/4442.html



活動③-1 農業就労者確保及び③-2 農業補助金/制度情報の展開

19

良かったこと/改善を要すること

項目	良かったこと	悪かったこと 改善を要すること	改善方法
③-1 農業 就労 者の 確保	農業の作業者の確保の仕組みは出来た。	- 仕組みはできたが、効果の測定（採用しやすくなったかとか）が出来ていない。 採用側（農業者）への周知ができておらず、アップロードまでできている農家が少ないのではと危惧している。	- システム管理者と仕組みの効果確認（募集者情報/応募者状況の推移確認）や仕組みの改善を検討。 - 広報誌や農業委員会を通じたPR活動を検討。
③-2 補助 金情 報の まとめ と展開	改訂作業～改訂版の公開までの迅速化が図れた。 （改訂作業 6月7日～リリース7月13日の5週間） （参考）昨年度のリリースまでの作業 5月26日～7月30日の9週間	- 農業者への情報の浸透は、まだ途上であると思う。 ✓ 配布実績：小冊子85部+HPアクセス83件（7月～11月） ✓ 前年同期比でアクセス件数の低下がみられる。（HP上の階層が深くなった為か？） （参考）昨年度 7月～11月 自実績：冊子90部、HPアクセス132件	- 情報提供の活動定着化 『デジタル町1丁目』を通じての補助金/制度の広報活動



令和4年度の実施策のレビュー（まとめ）

20

施策項目	実施状況	良かった点/改善点	評価
①インフラ整備	- 事業採択に向けて計画通りに進めることができた。 ✓ 採択 1地区 (R4.4) ✓ 採択申請 1地区 (R5.2) ✓ 事業計画策定依頼申請 1地区 (R5.3)	- こまめな地区説明会により、地区農業者との信頼感の醸成ができた。 - 農地の集積 計16.1haを見込めるようになった。	
②農業経営向上研修（平野部）	- 担い手としてのこれまで顧みることの少なかった集落営農にフォーカスした会を開催出来た。 ✓ 11/25 講演会/研修会開催	集落営農の課題の共有を図り、集落営農活性化への機運を高めることが出来た。	
③-1 農業就労者確保	『デジタル町』への農業求人を載せる仕組みを立ち上げた。（R4.4リリース）	- 効果の検証方法が無く、効果の有無を調べられていない。 - 農業者への周知に課題を残した。	
③-2 補助金等の情報のまとめと展開	補助金ハンドブックの改訂版を公開した。（R4.7リリース）	- 改訂作業期間を短縮できた。 - 農業者への浸透度は、改善が必要。	



～水・緑・風が輝く 豊かな暮らしと産業で 飛躍するまち“香南市”～